

議会カフェ

～議員とともに語ろう『10年後の下呂市』～

実施報告書



令和7年11月

下呂市議会 広報広聴特別委員会

1. 実施概要

(1) 目的

市民に開かれ市民参加を促進する市民ともに歩む議会を実現するため、下呂市議会基本条例第5条第5項の規定に基づき、ワークショップ(ワールドカフェ)形式での市民との意見交換を実施しました。

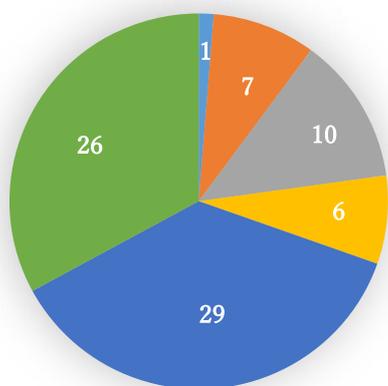
【ワールドカフェとは】

カフェのようなリラックスした雰囲気の中で、少人数グループでの対話を繰り返すことで、参加者全員の意見や知識を集め、新しいアイデアや深い気づきを生み出す話し合いの手法。

(2) 開催日程及び参加者

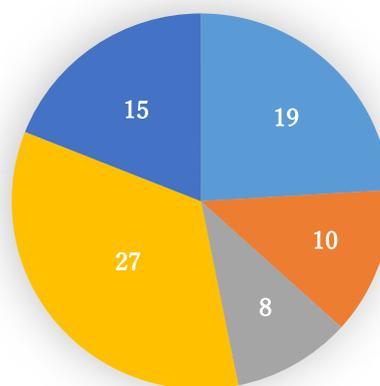
| 開催日 | 対象地域 | 会場 | 参加者数 |
|-----------|------|---------|------|
| 10月27日(月) | 小坂 | きこりセンター | 28名 |
| 10月28日(火) | 金山 | 金山市民会館 | 16名 |
| 10月29日(水) | 萩原 | 星雲会館 | 11名 |
| 10月30日(木) | 馬瀬 | 馬瀬中央公民館 | 6名 |
| 10月31日(金) | 下呂 | 下呂市民会館 | 25名 |
| 11月1日(土) | 全域 | 下呂市民会館 | 7名 |
| 計 | | | 93名 |

年代内訳



■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代以上

住所内訳



■ 小坂 ■ 萩原 ■ 馬瀬 ■ 下呂 ■ 金山

(3) スケジュール

| 時 間 | 所要時間 | 内 容 |
|------------------------------|------|------------------------------------|
| 19：00～19：05 (14：00～14：05) | 5分 | 開会あいさつ |
| 19：05～19：15 (14：05～14：15) | 10分 | 議会カフェの説明 |
| 19：15～19：20 (14：15～14：20) | 5分 | 自己紹介 |
| 19：20～19：45 (14：20～14：45) | 25分 | ワークショップ① 「10年後の下呂市は、〇〇が△△なまちに！」 |
| 19：45～19：50 (14：45～14：50) | 5分 | 休憩 |
| 19：50～20：15 (14：50～15：15) | 25分 | ワークショップ② 「現状の〇〇の課題」 |
| 20：15～20：40 (15：15～15：40) | 25分 | ワークショップ③ 「10年後、〇〇が△△なまちに変えるには？」 |
| 20：40～20：45 (15：40～15：45) | 5分 | 休憩 |
| 20：45～20：55 (15：45～15：55) | 10分 | まとめシートの発表 |
| 20：55～21：00 (15：55～16：00) | 5分 | 閉会あいさつ |

*時間欄の()内は、11月1日(土)におけるスケジュール

2. 各グループにおけるワークショップまとめ

各チームにおいて、「10年後の下呂市はこんなまちならいいな」、「下呂市のこんなところを変えていきたいな」といった将来像を描き、それに対する現状の課題と改善策について、意見を集約しました。

各チームで取りまとめられた内容は、以下のとおりです。

■小坂会場①

『年代、男女、様々な立場の住民が楽しく語り合い、心を開ける沢山のサロンがあふれるまち』

《現状の課題》

場所

費用

交通手段

担い手

広報手段

メリット（高齢者・若者にとって）

《解決策》

場所⇒会場使用料は参加者で負担

費用⇒クラウドファンディングの活用、補助金に頼らない

交通手段⇒相乗り、デマンドバスの利用

担い手⇒人材、核、リーダー

広報⇒立て看板、呼びかけ



■小坂会場②

『自然を活かした観光に取り組むまち』

《現状の課題》

認知不足とPR方法
交通アクセスが悪い
森林・道路整備
安全対策（医療体制・災害時等緊急対応）
慢性的な労働者不足 飲食・宿泊施設不足

《解 決 策》

市民にできること

懇談会、意見交換会の継続
SNS・ケーブルテレビ等による情報発信
クラウドファンディング活用による市民主導でPR動画の作成
まち・自然・滝などの資源を活用したツアーの実施

市に働きかけたいこと

温泉の市民解放
小中学生の職場体験
市民に知ってもらうための市民向けモデルツアーの実施
空き家活用への助成制度
外国人の雇用
森林・道路整備
市民の森づくり
SNSでの海外向け・都会の若者向けPR動画の配信



■小坂会場③

『みんなが来なくなるまち』

《現状の課題》

住む場所がない（情報がない）

若者が来なくなる良さを発信（若者が気付いていない）

今ある物をより輝かせる 残せるものは残す（小坂の今ある宝物）

親が安心（心のゆとり）できる教育 少人数、密な関わり（先生と生徒・生徒と住民）

《解 決 策》

きめ細かな情報発信

若者の自由なところを利用する

行政にもきめ細かな情報発信をお願いする



■小坂会場④

『すみやすいまちづくりとは』

- 交通の便がいい
デマンドカー・まめなカー どこでも乗れる
- 皆が集える、気軽に集まれる
話す場所 長瀬サロン（自由に 100 円） がんだて公園を歩く
- 人がいい
婦人会・老人クラブ 役をやる人がいない 祭りが大変
小坂のいい所を地元が知らない
- 自然を利用した観光
山がいい 炭酸泉 お粥 風景が良くストレスのない国道 41 号
- 若者、子どもたち
外に出る 年収 250 万円（下呂市） 給料 働く場所 都会の会社 アニメの聖地
国立公園になり、観光で呼ぶ込む
- 健康づくり
食材 農業 安全なものを作る
炭酸泉の活用（湯豆腐・しゃぶしゃぶ・天ぷら）
高地トレーニングセンターを宣伝（若者が来る）
- 高速道路を通す



■萩原会場①

『誰もが住みたくなる 帰ってきたくなるまち(移住定住)』

《現状の課題》

- 市内の医療レベルが低い
- 働く場所が少ない（職業の選択肢が少ない）
- 子育て世代に対する支援が少ない
- 交通弱者への支援が足りない（学生も含む）
- 移住者への支援が少ない
- 外国人労働者との共生意識が足りない
- 企業希望者への支援

《解 決 策》

市民にできること

- 移住者のリーダーシップに任せる
- SNS発信の強化（職場と住居）
- 自身の健康づくり
- ごみを減らす

市に働きかけたいこと

- トリエンナーレ芸術祭を活かす
- 空き住宅の整備、提供
- 移住者へコーディネート設置による支援
- 金山病院の整備
- 白タク支援



■萩原会場②

『みんなが元気なまち』

《10年後の下呂市の理想像》

働きやすいまち

産みやすい、治療しやすいまち 医療が（そこそこ）充実したまち

健康寿命の長いまち 元気な世代が多い 若者が元気なまち

福祉に前向きなまち コミュニティにあふれた明るいまち

子どもたちが色々な体験ができるまち

あるものを活用できるまち 新しいことに取り組むまち

高校は残っていてほしい

《現状の課題》

働きやすい環境がない

医療が充実していない

子どもの保護者の交流がない

《解 決 策》

市民にできること

夏休みに地域の寺小屋

みんなでラジオ体操

市に働きかけたいこと

医療の充実に力を入れて

高齢者の移動手段の確保

公共施設の利用料を安く（無償化を含む）

公共施設の Wi-Fi 環境が悪い

ちゃんとした喫煙所の設置

ファミサポの利用は相性を考慮

移住希望者へ温泉施設の無料券を配布



■萩原会場③

『住みやすく いろんな世代が集まるまち』

《現状の課題とその解決策》

- 空き家が増加（高齢者独居世帯の増加が一つの要因）
 - ⇒市民：身近で空き家になりそうなところの情報収集、市への提供
空き家を放置することは恥であるという文化をつくる
 - 行政：空き家の全数把握
固定資産税の軽減
- 医療が充実していない、市内で出産ができない
 - ⇒市民：将来医師を目指す子どもたちを育てる
 - 行政：医師の確保、健康な市民を増やす
- 若い人の流出が多い、戻って来ない
 - 仕事の選択肢（職種・企業数）が少ない
 - 下呂市の地域のしきたり、高齢者主体の行政、会社の職場環境の不備
 - ⇒市民：子どもたちが将来起業したくなる子育て
子どもたちに地域の文化や歴史に触れさせる
 - 行政：企業風土の改善、地域社会の現代化
- 良好な学校運営
 - ⇒市民：学校統合は、市民が委員会を設置して行政を動かす
 - 行政：こども園と学校の連携強化、廃校の利活用
- 有益な情報（医療・習い事・遊び場等）が手に入りにくい
 - ⇒行政：市民に分かりやすい情報提供、市民が入手した情報を入れるアプリの開発、
高齢者の情報入手に係る勉強会の実施
- その他課題
 - ・商店街がない（近くで買い物ができない）
 - ・道路アクセスが不便（高速がない、空港が遠い）
 - ・市立図書館が市内に5カ所あるので十分と安易に考えている、市立図書館の多面的機能（老若男女の交流・くつろぎ・生涯教育の進展）を深く考えていない
 - ・市内本屋の消滅と文化の劣化
 - ・魅力のあるふるさと納税返礼品が少ない（納税が豊かな生活につながる）



■馬瀬会場①

『日本で最も美しい村(馬瀬)に』

《現状の課題》

人口が少なくなっている 子どもが減っている 若者が外へ出て行く
美しい自然を守る担い手が不足
交通アクセスが悪い
精神障がい者に対する配慮が少ない
熊が多い

《解 決 策》

市民にできること

こまめに草刈りをする
外からの受け入れにかかる体制を
整える
子どもたちに文化の継承
空き家になりそうな家屋の情報共有
高齢者が情報発信をしていく
行政に声を上げ続ける 美しい村を
維持できるよう要望する
猟師を増やす

市に働きかけたいこと

空き家情報の充実
居住年数によって何かを出す
西村から下呂へのトンネル開通
障がい者に対する理解を深めるための
啓発と相談窓口の開設
熊に懸賞金を出す



■馬瀬会場②

『若者・子ども・人口が減少しないまち』

《現状の課題》

働き場所がない（若者が働きたいと思う職業がない）
店がない 遊ぶ所がない 医療が充実していない 教育の充実がない
交通アクセスが悪い 都市部との交流が少ない
核家族による生活が別
行政が人口減少を問題として取り組んでなかった

《解 決 策》

市民にできること

家族の形を元に
戻って来ないかと声を掛けてみる
子どもとふれあう機会を増やす
下呂市の文化、自然の素晴らしさを
個人がSNS等で発信する
お互いの親さんたちともっと対話で
きる機会を増やす
地域で助け合う気持ちを持つ

市に働きかけたいこと

とにかく医療の充実
商工振興に力を注ぐ 賃金を上げる
農林業の補助金を充実 馬瀬で農業を
しやすくする
学校教育の中で下呂市を誇りに思える
ような時間を来る 各地域の成り立ち
歴史を学ぶ時間を作る
空き家をリフォームなどして、移住者
を増やす努力をする おためし居住を
行う
学校の統合、地域外就学の実現
習い事ができる場所を作ってほしい
（送り迎えが大変）
益田清風高校の生徒数が増加する施策
（下宿の準備等によるスポーツ興隆、
店舗誘致、学科の特色化）



■下呂会場①

『人口増加に取り組むまち』

《現状の課題》

子どもを産める環境づくり
医療環境を整える
賃金を上げろ 働く場所を整える
高齢者に対しての住みやすい環境づくり

《解 決 策》

市民にできること

町内会で祭り事をする。
職場環境の魅力発信
健康でいよう
となり近所の助け合い

市に働きかけたいこと

医者をつれてくる
病院内の整備
医師住宅の新築
公園を造る
デマンドバスを増やす



■下呂会場②

『活力・活気あふれるまち』

《10年後の下呂市の理想像》

ぬくもりのある温泉と住民の心
季節の花があふれるまち 落葉樹の森防災に強い
下呂市に残りたい、帰りたいと思えるまち
若い人たちから選ばれる産科医院ができてほしい
名古屋へ短時間でいける リニア開通による交通網の発展
夜街がにぎやかであってほしい
イベントあふれるまち スポーツ振興

《現状の課題》

住民が下呂市の良さを実感していない 市民が下呂の良さをもっと知るべき
若い人が住みやすい場所（働く場所）
安心して出産ができる医療体制
全国規模のイベントの誘致と市民参加
アクセスの整備
旅人を引き止める場所がない

《解 決 策》

市民にできること

イベントに親子参加
名物料理（鮎など）
有償ボランティア
さまざまなイベント開催

市に働きかけたいこと

下呂・中津川間の高速道路
後援・子育て施設
下呂温泉検定の再実施（特権付き）



■下呂会場③

『若者・子どもが増え 地元の人々が誇れるまち』

《現状の課題》

保育師・看護師の元職の把握
交通の便が悪い
働く場所がない
若者が遊べる場所がない
下呂市での生活にかかるお金のメリット・デメリットが明確にされていない
医療機関が充実していない

《解 決 策》

市民にできること

資格を持っている知人、友人をリストアップ（情報収集）
ライドシェアに自分が登録する
温泉治療をするプロ選手を呼ぶ、知っている人と仲良くする

市に働きかけたいこと

とにかく実態をつかんで（免許保持者の確認）
土曜日・休日保育の開設
過去勤務していた人の調査
デマンドバスの運行 事業者への助成
施設の誘致
下呂温泉病院の充実



■下呂会場④

『魅力あるまちづくり』

《現状の課題》

- 高齢者対策
高齢者の買い物・通院が大変 高齢者の足の確保
健康で住み慣れた地域で住み続けられる
- 生活インフラ
インフラ整備 国道改修 高速道路がない 濃飛横断自動車道の早期開通
道の草が邪魔で人も車も移動しにくい
近くて充実した病院にかかれる 医療の充実 病院問題
樹種転換 常緑樹から広葉樹へ 一年中緑では風情がない
下呂駅が狭くて危ない バス停の見直し（下呂駅前バス停は危険なため検討が必要）
庁舎が不便
熊が怖い 外国人のごみ出し ルール違反
- 担い手・後継者
子どもが帰って来ない 進学先が少ない 空き家が多い 地域の祭りが続けられない
街が栄えれば雇用が増える 魅力あるまちなら人口の移転も図られる
- 観光振興
下呂温泉散策マップの充実 観光客（地元の人にも）に魅力あるまちであるため
まちづくり団体がたくさんあるが、横のつながりが弱い
活気ある商店
市内に点在する公園・観光施設のブラッシュアップ（平和公園・雨情公園・森城址公園・湯之島飛騨街道・合掌村・飛騨川河川公園等）

《解決策》

目的地までスムーズに行ける どこでも乗れる公共交通 予約制の問題 ボランティア
運転手の募集
濃飛横断自動車道（下呂・中津川間）の早期実現
医療関係の整備（住宅・出産・医師）
道路・河川の支障木伐採 景観づくり 林種転換による熊対策
外国人との共存社会
防災
移住問題 祭りの継承（外部からの支援）
観光施設の見直し 観光案内看板の多言語化 イヤフォンガイドの充実 写真コンテスト



■下呂会場⑤

『10年後の下呂市は、スマートシティだ！』

《現状の課題》

市道が改修されていない危険な場所がまだある 道路舗装に穴や段差増 県道の除草
インフラを整えて生活しやすく
手をかけていない山林が多く暗い 山に関心がない 田畑が放置され見た目も悪い
下水道利用者を増やす努力 企業への割引・減免等により普及率を高める
空き家が増えている（高齢者単身世帯から空き家へ）
買い物、医療等の難民を作らない 自動運転のルートをたくさん（スーパー・銀行等）
高齢者が元気で生活できる 高齢者の健康増進 先進の松本市を見たか？
デイサービスなごみ庵は古くなって使いづらい、改修して使える施設にしてほしい
医療の提供 ドクターのワーケーション
40年前は130軒だったが、205年に98軒になった 自治会活動に支障が
中原小が無くなったが、子どもがいなくなったわけではない 子ども遊び場がほしい
少ない子どもを地域でどう守るか
小中学校にプールなし サンビレッジの営業をどうするか？
下呂市に就職した外国人と共に生きていける
下呂大学もしくは有名大学の下呂キャンパスづくり
下呂市に住んでみたいと言う他地域からの移住体験の仕組みづくり
自給自足ができるようなまちであってほしい

《解決策》

市民にできること

草刈り隊（除草剤禁止）、田畑の手入れを皆で助け合い
地域の人の力をたくさんもらう
下呂市の良いところをしっかりと伝える、親が長男に帰って来いと言う
下呂市に来てもらう情報を出す、助け合いの心でやりたいことをもっと市外に発信していく

市に働きかけたいこと

働く人にもっと給料が出るようにしてもらおう
地域の文化をしっかりと教えていく
下呂市を教育都市に 大学のリモート教育キャンパスにしてほしい
ドクターに来てもらう 温泉入浴
他地域の良い事例をしっかりと調査する
今までのプランでなく、新しいプランを取り入れる



■下呂会場⑥

『住みたいと思うようなまち』

《現状の課題》

空き家の対策 一人住まいが多い 空き家に移住してこない（下水道が不備）
介護施設が少ない
教育のメニューが少ない 若者がやりたい仕事がない
中津川とのアクセス整備
温泉がある 白草山の活用を考える
店が早く閉まる 駅前が暗い 飲食店が混んでいる 少ない
下水道料金が高い
ペットボトルの回収方法が悪い

《解 決 策》

市民にできること

コロナで行事が減った
地域で集まる行事の復活
温泉でなく、旧5町村の良さを活用・発信
モルックを普及する

市に働きかけたいこと

地域の公共施設を残してほしい
市民に入浴割引をしてほしい（入浴券の配布）
人材育成のために支援する



■金山会場①

『金山の特色を活かし、「金山らしさ」を魅力にしたまち』

《現状の課題》

金山の良さが発信されていない
外の目で見ると そのためには市民も外を見て来る
地元民が気が付いていない 外部からの人の目と手を借りる
ものづくり
交通アクセスが急務
魅力をつなぐ担い手不足 関係人口 地域外の人とまちづくり
金山らしさをもっと全町民で探り合う
雇用機会があるが、専門を活かす職場がない

《解決策》

市民にできること

金山の良いところをもっと町民同士で話し合う 金山の魅力を伝える共育をみかく
金山以外の下呂市民に聞いてみる
子どもたちに聞いてみる
外国人に聞いてみる
地域資源を活かす
やろまいか精神を育てる
テクノロジーを使ってローコストで大きく発信する

市に働きかけたいこと

道路整備
職員の育成（民間への出向、まちづくりの勉強など） 職員がより地域に足を運べる環境づくり
まちづくり専門員を作る
地域おこし協力隊の積極的活用とサポート
移住お試し住宅（教員住宅等の活用）
中山七里の景観を観せるため、障害木の撤去等



■金山会場②

『誰もが安心安全に暮らし続けられるまち』

《現状の課題》

人口減少が著しい
働く場所に魅力がない
医療体制が脆弱 出産ができない
公共交通手段が少ない
農業の後継者がいない
放置された空き家が多い
山と川が活用できていない

《解 決 策》

市民にできること

子どもたちへの種まき（医療の現状を伝え、医療者の創出につなげる）
地域住民への農業体験の創出
地域住民・地元企業による魅力発信
空き家情報の把握と共有
健康管理イベントの開催
ボランティア交通

市に働きかけたいこと

地域の魅力発信 若い世代を意識したPR
医師の確保・育てる（地元の子）
空き家や農業等に係る住民活動への支援
ライドシェア ドア to ドアの実現



■金山会場③

『市民一人一人が全国に誇れるまち』

《現状の課題》

女性が子育てをしやすい町に（安心して出産ができる町に）
特色ある名産品がある
良い金山文化を継続できる町に
こども園、小学校、中学校が全部ある
病院があるのか？
地域全体で楽しめていけるといい
交通の便が悪い（バス・タクシーが少ない） 買い物難民（特に東と菅田）
祭りの伝承ができていない 地区行事の縮小、廃止
空き家の増加

《解 決 策》

市民にできること

住民が魅力を知る
名産品を作る
金山町出身のすごい人を探す集める
失敗を恐れない 失敗を笑わない
経験、チャレンジができていない
住民のマイナス思考を変える

市に働きかけたいこと

医師の減少
獣害の増加
防犯カメラの設置
「10万円でおもしろいこと企画」
キャンペーン
町内の集金が多い
山林対応
空き家で新しい町づくり（アート・
スポーツ・子育て世代・レストラン・
ハンドメイド等）
役所の人の気合を いい町を作るぞ



■下呂会場(全域対象)①

『温泉を活用した福祉と医療のまち』

《現状の課題》

観光中心になりすぎ 市民生活中心の市政は？
子どもたちが楽しめるまちに
市にどのような施設があるのか市民に知られていない
観光の目玉がない
下呂・中津川間の道路整備 濃飛横断自動車道は？
本屋がない
高齢者・妊産婦等 医療機関の充実が必要では

《解 決 策》

市民にできること

利用者になり、友人達に話をする
SNSの活用

市に働きかけたいこと

上ヶ平サンビレッジ 10年後も健在で
子どもからお年寄りまで利用できる
市民が利用しやすい温泉
医療の充実(出産可能なまち)
障がい者が安心して最期まで住み続け
られるまちづくり



■下呂会場(全域対象)②

『市民が健康で生活できるまち』

《現状の課題》

市民が集まる場所がない
スポーツ施設の利用が少ない スポーツ行事が少ない
医療体制が充実していない
交通アクセスが悪い

《解 決 策》

市民にできること

地域での互いの声かけ
地域(地区)で集う場所を作る
積極的に意見を述べる
地域活動をコロナ前に戻す
地域での健康行事
乗り合い

市に働きかけたいこと

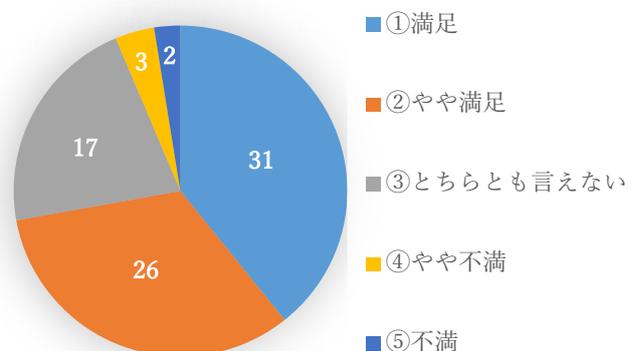
市報等でのアピール 宣伝
行きたいところへ行ける 公共交通の
充実
子どもを安心して産める状況を作る
医療体制を整える
介護施設の整備



3. 参加者アンケート結果

(1) 議会カフェの満足度

| 項目 | 人数 (割合) |
|------------|------------|
| ①満足 | 31 件 (39%) |
| ②やや満足 | 26 件 (33%) |
| ③どちらとも言えない | 17 件 (22%) |
| ④やや不満 | 3 件 (4%) |
| ⑤不満 | 2 件 (3%) |



(2) 議会カフェの感想（肯定的意見と課題）

肯定的意見

- 意見交換の活性化と学び：活発な意見が出て、様々な考えを聞けて勉強になったとの声が多くありました。市民自らが問題提起し、課題や解決策を話し合うワークショップ形式は、「新鮮だった」との評価がありました。
- 対話の機会：普段できないことを話せたり、議員とフレンドリーに話せる貴重な機会であったと評価されました。
- 地域への思いの共有：参加者が「下呂市を愛する気持ち」や「良くして行きたい気持ち」を共有できたことに感動したという意見もありました。

課題・改善要望

- 時間不足：「時間が短くて深く話ができなかった」、「テーマごとの時間が短すぎる」など、議論を深掘りする時間がないことに不満を示す意見が複数ありました。
- 形式への認識のズレ：「議会カフェというよりも、討論会だった」と感じた参加者がいました。カフェという名称から、もっとラフな雰囲気や議員と直接話す機会を期待していたが、実際は市民主体の意見交換会だと感じたため、「もったいない」という意見がありました。
- 参加者の偏り：参加者の年代が60代～70代に偏っており、20代～50代の参加を増やすべきとの指摘が複数ありました。
- 意見の偏り：下呂会場では、区長や地域の役付きの年配者の声が強すぎて、「気軽なカフェ感覚ではなかった」という意見もありました。

(3) 下呂市議会への要望・期待

- 対話の継続と反映：今回のような「議会カフェ」や「対話できる場」をもっと頻繁に開催し、継続してほしいという要望が強く寄せられました。そして、そこで出た意見を単発で終わらせず、市政に活かせるよう実現することが期待されています。

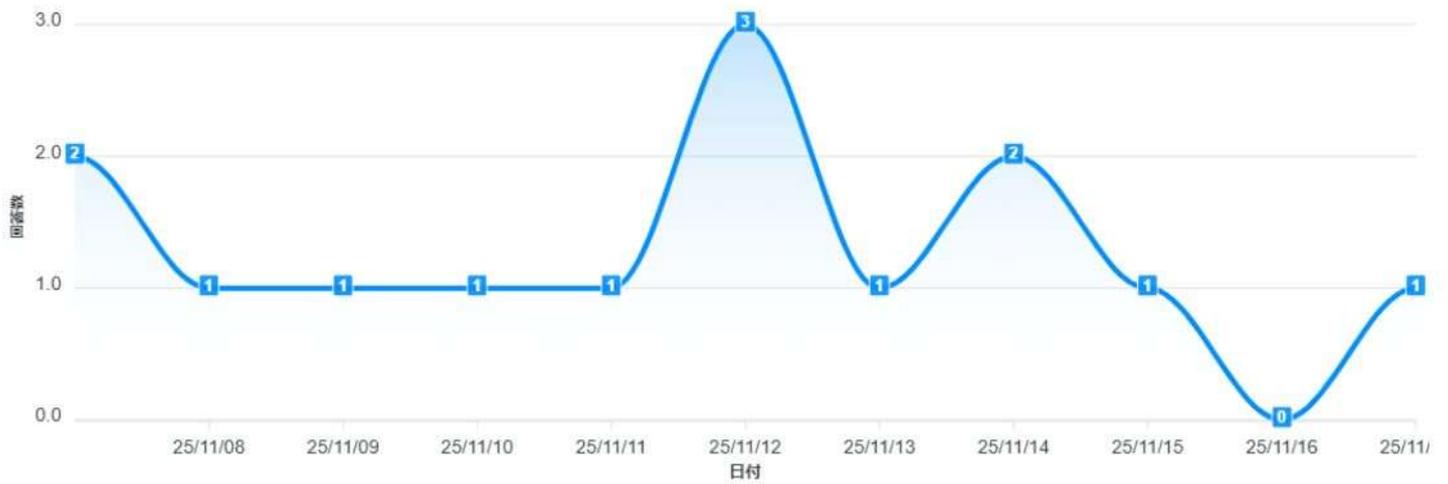
○議員の行動力とレベル向上:

- ・全国から一目置かれるような議会になってほしい。
- ・しっかり政策を学び、議員提案の条例も作れるレベルになってほしい。市長と対等に政策が語れる議員を望む声がありました。
- ・行政の提案にすべて同意するのではなく、少数意見であっても反対すべきことは反対してほしい。
- ・議員が選出された地域を頻繁に巡回し、地域住民の生の意見に耳を傾けてほしい。

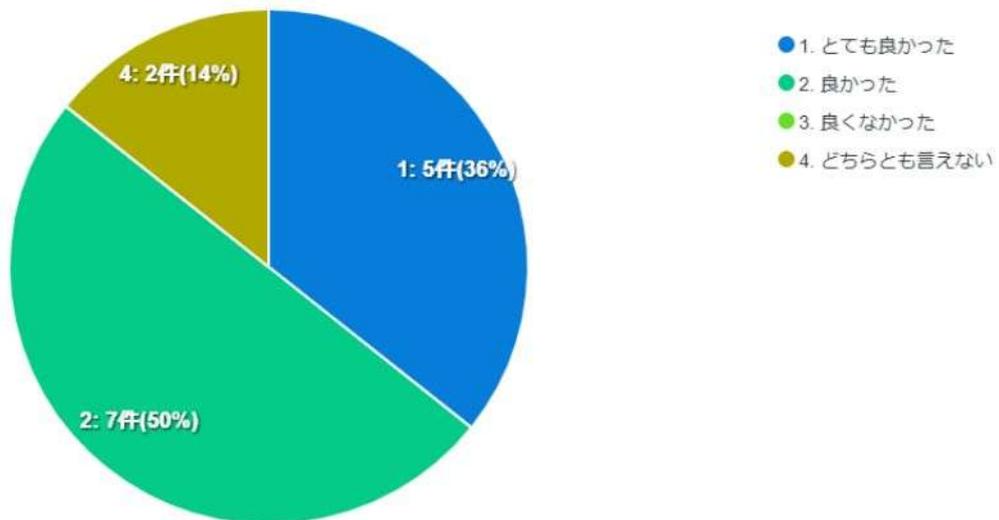
○市民との橋渡し: 市民と市（行政）の意見間の橋渡しとして活躍することが期待されています。

議会カフェ議員アンケート

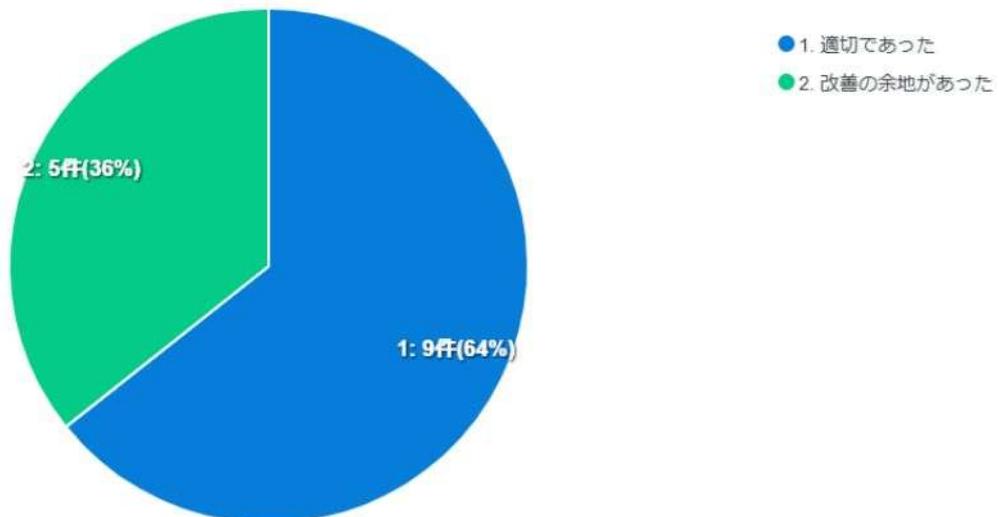
回答数推移



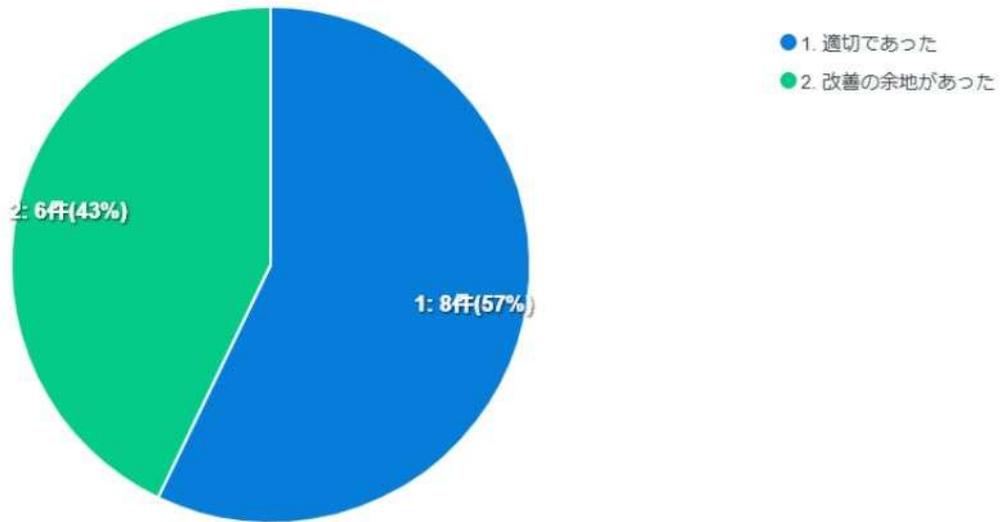
Q1. 「議会カフェ」を終えての率直なお気持ちを教えてください。



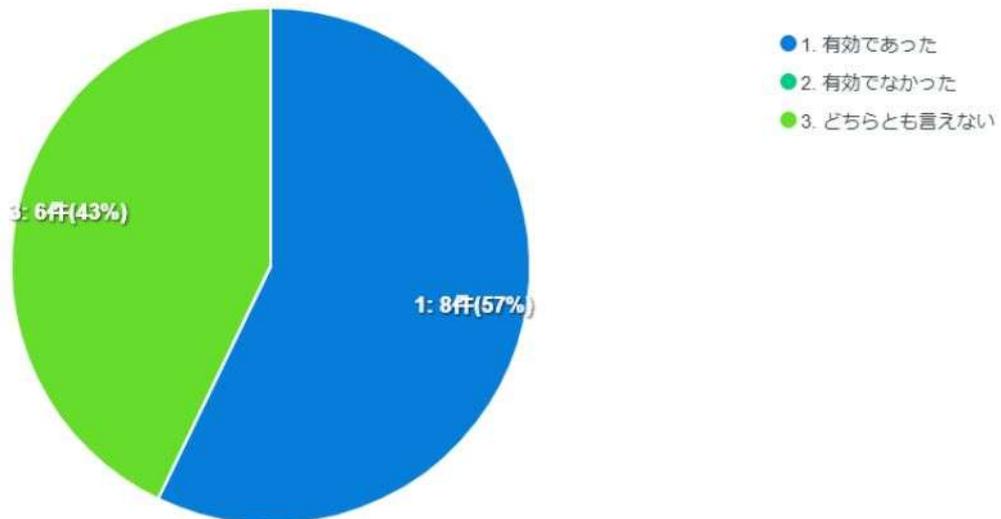
Q2. 開催時期（10/27～11/1）と開催日程（連続開催）は、どう思われますか？



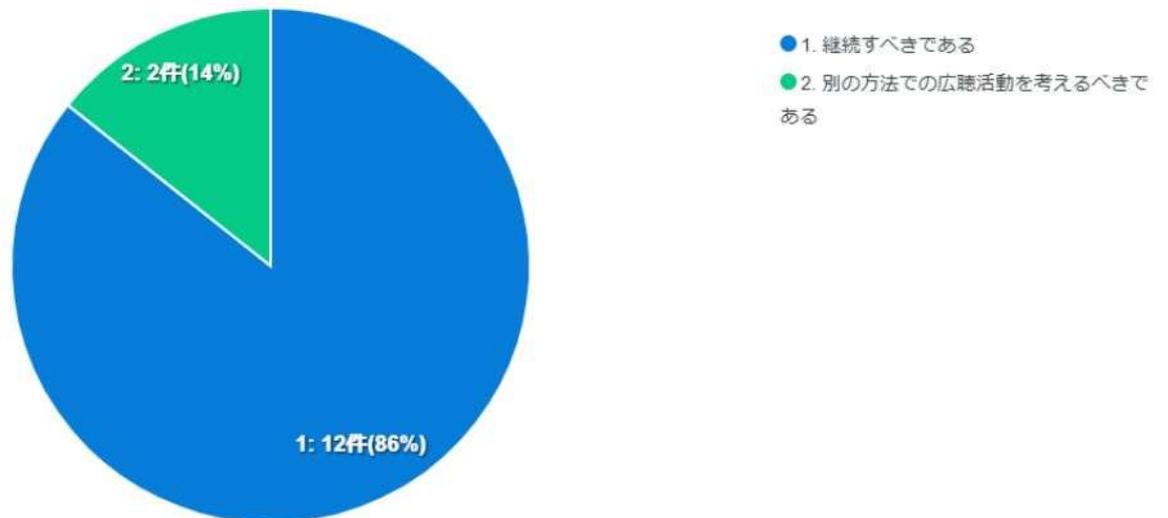
Q 3. 議員のチーム編成及び役割分担は、適切でしたか？



Q 4. 今回の運営形式（「10年後の下呂市」をテーマとしたワークショップ方式による意見交換）は、市民の意見・提案を引き出すために有効でしたか？



Q 5. 「議会カフェ」を今後も継続すべきだと思いますか？



「議会カフェ」議員アンケート結果（自由記載）

Q1. 「議会カフェ」を終えての率直な気持ちは？

○「とても良かった」の理由

- ・当初は集まるかどうか不安でしたが、皆さんの協力もあり、合計 90 名以上の方に参加いただくことができ、率直に感じていることや、地域の課題について、直接お話を聞くことができた。またアンケートの中で、継続開催を望む声もあり、「話せて良かった」といった声が多かったのも良かった。地域ごとに人数のばらつきはありましたが、若い人も参加してくれており、開催した意義はあったかと思えます。
- ・色々な職種や年齢の方と話ができて良かったと思えます。
- ・市民の皆さんが何を思っているのか、何を希望しているのか、地域で同じような課題が出たのでその辺りは今後の課題かと思えます。地区で違う所は各々解決できることなのか？ 要望へとなりやることなのかも話せて良かったです。楽しそうに希望を話すことは、心身の活性化にも繋がると思うので参加者も前向きな方々でしたので、まだまだ活路はあると感じました。
- ・付箋に思いを書く中で、いろいろなお話を聞くことができた。少人数のグループだったので、皆さんが意見を言うことができた。
- ・広報広聴委員会の皆様お疲れ様でした。全員が参加し、共に描けるワークショップ方式が良かったです。

○「良かった」の理由

- ・まずは参加していただいた市民の方が多くみえた点。ワールドカフェ形式にしたことで、広く意見を聞くことができた。思ったより前向きな意見、また、人口減少に対する危機感の高さなど今後参考になる意見も多く聞けることができた。
- ・市民が考えるということを体感してもらえた。
- ・初めての試み。多くの方に参加いただけ良かった。ただ、我々が声かけした方が多く、普段から色々聞いており、そうでは無い意見がもっと聞けると良かった。
- ・議員個人ではなく、議会として市民の皆さんの声を活かす取り組みを伝えられた。
- ・市民との交流。テーマを決めて行ったこと。
- ・気楽に話げできた。
- ・個人からの意見がたくさん聴くことができた。

○「どちらとも言えない」の理由

- ・初めての試みでしたが、多くの方々に参加していただき思いが聞けた。年齢層に偏りがあったのでは。呼び込みまでして開催するのはいかなものか。

- ・説明できません。ただ、すべての地域でそれなりにできたことは良かったと思います。

Q 2. 開催時期と開催日程（連続開催）は、適切でしたか？

○「適切であった」の理由

- ・いつの時期でも参加できない方はできないが、他の地域でも参加可能としたため多くの方をカバーできたと思う。
- ・季節的には寒くなく暑くなくて適切だったと思います。
- ・集中していた。ベストな時期がわからない。
- ・日程は夏場の方が私的には良いのかとは思いました。寒くなると一旦家に帰ると出にくい。連続開催は流利的に賛成です。課題が明確になる。
- ・続けた方が記憶にも新しく、スムーズな進行ができたように思える。また、時期もそれほど暑くも寒くもないので、適切だと思う。
- ・一週間集中できて良かった。市民の皆さんへ、議会カフェ週間と言えた。
- ・集中して臨める事ができた。
- ・連続に開催することで、課題など共有できる。鉄は熱いうちに打ての考えです。

○「改善の余地があった」の理由

- ・連続での開催は議員の負担感を考えると大変だったかなと思う。また土曜開催も試してみたものの、なかなか人が集まらなかったのは残念でした。時期としては、仮に提言につなげることを考えれば、少し遅かったとも思いますが、中長期的な話がメインだと思えば、問題なかったかとも思います。
- ・参加できる日を確認して参加しやすい日程の設定が良いのでは。連続等こだわる必要がない。政策提言に繋げるために年度始めが良いのでは、そうすることで委員会の取り組み事項に入れる事が可能になる。
- ・年1回でいいと感じました。もう少し長い日程で計画しては。例えば、週2日程度で。
- ・北部・中部・南部の3回ぐらいでいいと思います。

Q 3. 議員のチーム編成及び役割分担は、適切でしたか？

○「適切であった」の理由

- ・人数が少ないところは議員が多く入り、人数が多いところは議員が一人での対応となり、臨機応変に対応いただけましたし、人数が足りないという感じではなかったのも、問題なかったかとは思いますが。むしろ、日によっては、もう少し手厚くてもよかったのかもしれない。
- ・出身地の身近な意見、また普段余り聞けない地域の方の意見も聞け、数カ所担当だったことは適切だったと感じた。

- ・出身地域で振り分けた点。
- ・議員の半分で分担できており、地域出身の議員が出席することができた。
- ・今回のような参加数では適切であったと思います。

○「改善の余地があった」の理由

- ・ワールドカフェの進め方をもう少し理解してもらう必要があったと思う。
- ・議員側の役割はできていましたが、どのようにしたらよいのか事前に打ち合わせをするのと、時間的に余裕ないと思いますが、直後にどうだったかの話をするのがよかったですと思いました。
- ・参加人数の差はあったが、地元よりも他地域の方が一緒にやり取りしながら客観的に話が出る。自宅だと重い感じになるので。
- ・委員長・副委員長以外は皆同じ働きでした。特に分担する必要性を感じません。
- ・班編成にあたって最低2名は必要。

Q4. 今回の運営形式（「10年後の下呂市」をテーマとしたワークショップによる意見交換）は、市民の意見・提案を引き出すために有効でしたか？

○「有効であった」の理由

- ・一部の人の意見ではなく、全員が参加する形で声の大きい人ではない人の意見を聞くことができた。
- ・各自が考えて、話すということで、ずっと聞いているだけ（誰か一人がずっと喋り続けるということは避けられた）、という人が生じないような仕掛けは良かったと感じています。一方で、テーマ設定として10年後の下呂市をテーマに話すことで、ある参加者が「20年前」「10年前」を振り返りながら話されていたのが印象に残りました。ワークショップ全体としてやるのが忙しすぎたという印象も受けました。はじめのワークの中で、いろんな人の想いや課題感をひとつのテーマにまとめる必要があったことで、尖ったテーマ設定にはなりにくく、ふわっとしてしまった印象でした。もう少し興味・関心に寄せて、深掘れるような運営ができて良かったかなとは思いました。最後のパートの「自分にできること、市に働きかけたいこと」というテーマでの議論を通じて、市政を自分事だと捉えてもらえたのは良かったのではないかと感じています。
- ・多様な意見が出て今後について話ができ、有効と思いました。進め方について打ち合わせが必要だと思いました。
- ・課題が明確になるところ。
- ・市民の皆さんが積極的に発言できていた。冒頭にテーマに向け今取り組んでいる内容を議会から話した方がより良かったのでは。
- ・色んな意見が出て、共通意見もあり、共感することが多かった。
- ・高齢者にはそんなに遠くない時の話であり、若い世代には今から取り組んでいける話になるので良かったと思う。

○「どちらとも言えない」の理由

- ・大きなテーマであったため。参加者が少なく多く意見がでにくかった
- ・テーマを絞らずに、それぞれの意見を自由に出していただけるような方式でも良かったかと思えた。特に、最後一点に絞ったが無理して絞る必要も無かったように思えた。
- ・10年後と言いながら、やはり現在の問題点の解決が多かった。年齢的にも今後の下呂を担っていただく方々の参加が少ない。
- ・今現在直面している個人的な不満が多い反面、市の将来を見据えた建設的な意見が少なく、今回のカフェの開催意図とはズレを感じました。
- ・参加者によっては、議員に対し聴いて欲しい、議員と意見交換の場として開催して欲しいとの意見をいただいた。
- ・参加された方には色々な課題、議会への想いがあり、事前にテーマを示すことも含めチョイスするテーマも一考。

Q5. 「議会カフェ」を今後も継続すべきだと思いますか？

○「継続すべきである」の理由

- ・せっかく市民の方からも良かったということを知ったので、さらに進化させて行ければ良いと思う。
- ・議会カフェという名称や、運営・頻度・時期などは、皆さんの意向を踏まえて検討すべきだとは思っていますが、市民と直接対話をする機会としては有効だったように思いますし、こうした場をつくることはやっていくと良いと感じました。
- ・議員も市民も一つのテーマで話ができて、今後はテーマを変えて継続するとよいと思いました。
- ・認知度が低いのである程度、継続してもいいのでは。毎年続けるかは別として。
- ・直接会話できることが大切だと思います。議会カフェの後、個人的に話がしたいと連絡があり私のことを知ってもらえる良い機会になった。それと「何を求めている」かがわかること。10年後を語ることはマイナスなことでは無く、想像を含め楽しい発想ができることを共有する良い機会だったと思うので、続けるべきかと思います。しかしワークショップ形式も良いですが、座談会のような場所でも良いかと。
- ・堅苦しく無く、色々な意見が聞くことができたので、継続すると良いと思う。
- ・個人の市政報告会より色々なご意見を耳にできる。
- ・今後、テーブルごとにテーマを出し考えてもらう。職種別、年齢別などで開催。
- ・年1回程度ならいいと思います。
- ・個人の意見が述べ易い。
- ・せっかくですので、今回のアンケートを参考に改善すべきは改善し、2・3年は、続けるべきだと思います。

○「別の方法での広聴活動を考えるべきである」の理由

- ・運営の仕方を工夫した議会カフェを希望します。結論まで行く必要はなく、もっと気軽に発言できる場がいいと思います。ワークショップ形式も自分は？です。
- ・今回のやり方は良いが、来年は違う方法が良いと思う。出された意見の中に、「対話できる場」とあるので、テーマを決めて意見交換会も良いと思う。

Q6. 「議会カフェ」以外の広報広聴活動について、今後、強化すべき点は？

- ・やはり子育て世代の方がなかなか参加できなかったということを知ったので、マルシェなどのイベントへ出張する形も一つとして検討していきたい。
- ・議会だよりについても、様々な意見をいただいていますし、まだまだ工夫の余地があると感じました。
- ・議会カフェは、初の取り組みでとても良かったと思います。今後は呼びかけを早めにして学生さんたちにも参加を促したいと思います。
- ・紙ベースなのか、LINEなのか、Instagramなのか、FBなのか、YouTubeなのか、CCNなのか、情報の発信は多様が良いと思います。何故なら相手は何を見るかは年代により違いがあるので。発信の仕方かな。市議会議員としての活動をどんどん市民には知ってもらいたい。何をしているのかわからないでは、職務としての意味がないかと。
- ・広く募集してもなかなか若い方や女性の方の参加が少ないので、そういった方のグループなどに直接声かけをして意見交換を行なっても良いのではと思う。例えば、商工会の女性部や青年部など。
- ・事前の申し込み者以外に、当日来られた方が多かった会場があったが、グループ分けや議員の振り分け、準備品の欠品などがあった。温コーヒーがあっても良いかも。
- ・十分頑張ってみえますので今のままでいいです。
- ・「議会だよりは楽しく読めない」との意見がありました。全会一致の議案はQRコードで分かるようにして、紙面に余裕を持った構成にする。
- ・市の職員組合の役員との意見交換会の開催をしてはどうか。
- ・現在色々な視点で、広報広聴において改革、改善を進めていただきありがたいと思います。